

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401160		
法人名	医療法人 弘池会		
事業所名	グループホームかづさの杜2号館		
所在地	長崎県南島原市加津佐町戊4427番地		
自己評価作成日	令和3年1月21日	評価結果市町村受理日	令和3年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人である為、24時間受診対応可能である。また、定期的に健康チェック(訪問看護)を行っている。
医療面での素早い対応ができる。入居者様の思いに寄り添った支援。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は職員に対し、ホームの概要や役割について説明し理解を深めることで当ホームの理念に沿った考えの統一を図り、入居者本位に検討しできる限り希望に沿った支援に努めるなど理念の実践に繋げている。ホームが山間部に位置していることから近隣住民との交流が難しい環境にあるが、運営推進会議メンバーの自治会長を通じてホームの取り組みを地域へ伝えるとともに、ホーム広報誌を自治会の回覧板で配布するなど地域との繋がりを大切にしている。管理者は日頃より職員とのコミュニケーションを大事に捉え、職員の体調管理や働きやすい職場づくりに努めており、職員からも管理者へ相談しやすいなど良好な関係を築いている。職員は日々の生活の中で声掛けの機会を多く持ち、入居者の表情の変化などから思いの把握に努めるとともに、入居者の安心できる場所をつくることの認識を持って支援に取り組むなど、家庭的で温かなホームであることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

グループホームかづさの杜2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の1日の流れがあり、家庭的な環境とは言えない所もあるが、理念を共有し定期的に話し合いながら、家庭的な環境に近づけ安定した生活を送って頂いている。	管理者は職員に対してホームがどのような事業所なのか説明し理解を得た上で入居者への支援に対する考え方の統一を図り、ホーム理念に沿った支援の実践に繋げている。職員は日常的に話し合う機会を設け、支援方法を検討することで入居者が望む生活が送れるよう努めるとともに、家庭的で入居者の安心できる場所をつくることの認識を持ちながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会自体が小集落であり、施設も山間部にあり、環境としては静かであるが関わりは少ない。行事を通して近接の老健で保育園・中学校との交流を行っている。しかしR2年は新型コロナウイルス感染予防に伴い、交流は見送っている状況である。	自治会長を通じてホームの実情や取り組み等を地域へ伝えており、自治会長や地元保育園からの地域行事の案内があるほか、ホーム広報誌を自治会の回覧板で配布するなど地域との繋がりを大切にしている。地元神社の祭りの際には神輿が通るルートにホームも含めてもらうよう依頼し、実際に神輿が来るなど入居者の楽しみに繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を配布しているが、活かしているとは思わないと思う。運営推進会議出席者、地域住民代表や市町村職員へは会議の中で多少理解してもらえるように話をしていたが、R2年は新型コロナウイルス感染予防に伴い、ほとんど出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、市町村職員、自治会長のご意見や疑問はその時、又は次回会議までに検討し、返答・情報交換している。利用者家族から市町村職員へ直接質問できる場にもなっており、それらも含めてサービス向上へ繋げている。R2年においては新型コロナウイルス感染予防に伴い、会議自体出来ていない。代わりに文書でのやり取りを通して、できる限り意見交換や状態報告をしている。	運営推進会議には行政・自治会長・家族の参加があり、入居者の状態・身体拘束状況・消防訓練・新型コロナウイルス感染予防対策・行事報告を行い、ホームへの理解を得ている。事故報告の際には対応策も伝えることで家族の安心に繋げるほか、家族からの要望をもとにリモートでの面会を導入したことで、互いの顔を見られると入居者・家族双方から好評の声を得ている。会議で挙げた意見等は全家族へ面談時に伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段は積極的に連携は取り合っていない。入退居報告や書類の作成・申請時や広報誌の配布で訪れる又は連絡する程度。R2年においては新型コロナウイルス関連で連絡を密に取っている。	行政担当者へホームの実情や入居待機者、空床状況について伝えることでホームへの理解を得ている。また、系列グループホームと合同で作成した広報誌を誰でも閲覧できるよう、市役所・地域包括支援センターに置くことでホームを知ってもらう機会に繋げている。更に、各種制度について入居者本人・家族・行政・ホームで話し合い解決策を見出すなど、行政担当者とは相談しやすい関係にあり協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の身体拘束廃止委員会の勉強会に参加し、禁止行為の書類を掲示して周知を図っている。新人職員へは身体拘束についての研修を実施している。	法人で開催する身体拘束廃止委員会にホーム職員も参加し、委員会で話し合った内容をミーティングの際に報告することで、身体拘束に関する学びの機会としている。ホームでは身体拘束ゼロを掲げ、入居者の見守りや一緒に行動するなど本人の意向に寄り添うことで身体拘束をしないケアに努めている。令和2年10月にはホーム内研修を行い、どういったものが身体拘束に繋がるかを学び、日々の支援内容について振り返りを行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会の勉強会に参加し、きちんと理解し、職員全員がお互いに注意して見過ごされる事がないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員ではないが権利擁護に対する資料で学習してもらっているが、外部研修についてR2年は新型コロナウイルスの関係で参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解して頂ける説明を十分に行い、納得して頂いてる。後日、不明な点があらわれる場合についても尋ねて頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の面談時やご面会時にご家族へ意見等がないかお聞きして、できる範囲で反映できるよう職員で話し合いながら取り組んでいる。R2年は新型コロナウイルス感染予防に伴い、電話での面談対応を行っている。	毎月、家族・管理者・担当職員での面談の機会を設け、入居者の健康状態や生活・行事参加状況、運営推進会議内容を伝えることで、家族が意見や要望を言いやすいよう努めている。家族から歩く機会を設けて欲しいとの要望に対し、入居者本人の気分や天気の良い日には外を散歩する機会を増やすなど、入居者にとって歩くことが苦にならないよう取り組んでいる。遠方の家族には電話で入居者の状況を詳細に伝えるなど家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に職員の意見を聞く機会を設けている。又、参加できない職員には事前に意見を聞いたり、議事録を見てもらい全職員が意見できるようにしている。	管理者は日々の業務の中で職員とのコミュニケーションを大事に捉え、職員の体調管理や働きやすい職場づくりに努めている。入居者一人ひとりの対応の仕方について、職員間で意見を出し合ってマニュアルを作成し支援方法の統一を図るなど、職員意見を運営に反映している。職員からの提案で花が好きな入居者のために花を植えたプランターを設置するなど、入居者の喜びに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得を勧めている。又、時間外勤務の手当支給にて向上心ややりがい等のアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時、外部研修・法人内研修・勉強会への参加促し、個々のスキルアップの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の勉強会・研修に参加し、同業者との交流できる機会を作っている。しかし、R2年においては新型コロナウイルス感染予防に伴い、交流できる機会はほとんど持ててない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっての事前調査にて、本人及びご家族から聞き取り・情報を頂くことにより、要望・希望等が把握でき、安心して生活していける関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたっての事前調査にて困られていること・心配されていることを伺う。ご家族の話聞き、その中での助言・協力を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	下肢筋力の低下・維持や関節の拘縮の方には病院へのリハビリや他科等を勧めている。又、定期的に病状の変化を観察しないとけなく、通院が困難な方については、医師と相談し訪問診療も検討していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に時間を過ごすことにより会話の中でご本人が思っている事・できる事に耳を傾け、日常の中での手伝い等してもらいながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会の促しを行い、外出・外泊を勧めている。又、行事への参加促し、絆を大切に、本人を共に支えている。しかし、R2年においては新型コロナウイルス感染予防に伴い、面会制限行っている為、代わりに電話で話をしてもらう機会を増やして、本人の心の支えになっていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお店や行事等に積極的に参加し地域の方達との交流を大切にし、関係継続の支援に努めている。しかし、R2年においては新型コロナウイルス感染予防に伴い、人が多い場所へは控えている状況。人がいない場所についてはドライブがてら近くを通り、車の中から見てもらい懐かしんでもらっている。	ホームから家族に面会の声掛けを行うなど、入居者・家族との関係継続の支援に努めている。職員は家族・友人の面会の際にはお茶を出し、居室でゆっくり会話を楽しめるよう空間づくりに配慮している。また、以前入居者が住んでいた自宅付近へドライブを行い、本人が道案内をしたり、馴染みの店舗の名前を言って昔を思い出す機会にするなど馴染みの関係継続に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な環境の中、役割分担し一人一人が孤立しないよう、ご本人の希望に沿って職員が間に入り、声掛けしながら支え合う支援を努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後も状態観察に伺い、その後の本人様の状態の相談にも応じ、退居された方のご家族や本人様との関係も大切にしよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度の家族面談時に入居者様、ご家族の要望・意向を聞き、申し送り等の活用や声掛けにて全職員が把握するよう努めている。	職員は日々の生活の中で声掛けの機会を多く持ち、職員の「リンゴおいしそう」との声掛けに対して入居者に表情の変化が見られた際にはリンゴを提供し喜ばれるなど、言葉で表せない入居者の思いの把握に努めている。また、入居前に晩酌を楽しんでいた入居者には、主治医へ相談しノンアルコールビールを提供するなど、本人の意向に沿った生活が送れるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や日常生活の中での会話・行動等でも把握しておき、ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中から一人ひとりの行動や状態の観察を行い、その方の有する力や心身のレベルの状態を把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に家族へ希望・要望等を尋ねている。又、日々の生活の中で入居者様と会話し状態観察を行っていく中で、本人様に合った介護計画が作成できる様努めている。	毎月、ホームでは家族との面談の際に意向を聞き取りケアプランに反映している。職員は毎日サービス内容が実施できたかをチェックし、3か月毎に計画作成担当者と担当職員がケアカンファレンスを行い、プラン内容の見直しを行っている。体調変化や認知症の進行、入居者本人・家族の意向が変更した際にはその都度見直しを行うことで、現状に即したケアプランとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録として各職員が気付いた事、どういった対応を行ったか、どういう風な会話をしたのか等の情報を記入している。些細な事でも記入しており毎日の小さな変化にも気付く事が出来るよう職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や協力病院との連携を活かし歯医者や体調の変化などでの医療面の協力が出来ている。 更に、医師の協力のもと希望者には訪問診療を行ってもらい健康管理に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、新型コロナウイルス感染拡大の為、例年通りのような行事は行えておらず。施設内で出来るレクリエーションや散歩等をメインに安全に生活して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医や入居してからの協力病院の主治医との連携をしっかりと、入居者様の状態を把握し、適切な医療を受けられるよう支援している。 又、他科受診の為、家族対応の場合には日常生活がわかるように本人の状態を書いたメモを渡している。	ホームでは入居前のかかりつけ医や入居者本人・家族が希望する医療機関が受診できるよう、職員と家族が協力し支援している。日頃より母体医療機関に対して全入居者の情報提供を行っており、主治医が他の医療機関であっても緊急時には対応してもらえるなど早期治療に繋げている。また、週1回訪問看護の来訪の際には相談したり、処置・助言を受けることで入居者の健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に週一回来てもらいその他にも必要に応じて相談を行い、適切な処置、助言を受けている。 又、健康管理記録として記入してもらっており、全職員が把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と連携を密に取り、今後の対応についても相談、助言をもらっており主治医をはじめ、関係づくりは出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来る事をご家族には説明行っている。ご家族の希望にて今までは協力病院への搬送が多かったが今後、家族・本人の希望があれば全職員で支援していく。	入居前にホームでの看取りの指針について家族へ説明し同意を得ている。重度化した場合は主治医・家族・訪問看護・ホームで話し合い、本人・家族が希望する場所で適切なケアが受けられるよう支援している。訪問看護については緊急時や夜間帯、看取りに関する協力体制を構築しており、本人・家族の安心となっている。現在、ホームは重度化に対して在宅酸素・点滴治療に対応可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員ではないが救命救急の研修には、実践力を身につけるよう参加してもらっていたがR2年は新型コロナウイルスの影響で勉強会等が例年のように出来ず参加できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の消防訓練を。昼、又は夜間設定で実施し、概ねの職員が出来ている。新人職員には直接指導し、周知を図っている。 ろうけんや病院等の協力体制も出来ている。 又、防火点検で毎日と月1回の定期点検を実施して、火災を未然に防ぐ等の対策をしている。	消防訓練は年2回、同建物内の系列グループホームと合同で実施しており、同敷地内の介護老人保健施設職員も参加するなど有事の際の協力体制を築いている。今年度は地震に備えて食器棚や冷蔵庫など大型の家具を突っ張り棒で固定することで転倒防止を図ったほか、ハザードマップを活用しホームが危険箇所位置していないことを確認するなど入居者の安全確保に努めている。	防災計画書は未整備であり、現在、同敷地内の介護老人保健施設と連動した防災計画書を作成中である。防災訓練も実施できていない状況にあるため、昨今の大雨等の自然災害が多く発生していることを踏まえ、入居者の安全が確保できるよう、防災計画書の作成並びに防災訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や誇り、プライバシーを傷つけないよう心掛けています。接遇・対応に問題がある職員には気付いた職員が注意するようになっているが中々できてはいない。	職員は入居者が人生の先輩との認識を持ち、言葉の掛け方や声の大きさなどに配慮した対応をすることで、尊厳や誇りを大事にした支援に努めている。不適切な言葉掛けがあった際には管理者がその都度注意し、必要に応じて個別で指導することで改善に繋げている。トイレ誘導時は入居者へさりげない言葉掛けを行いプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望等を聞き自己決定できる様、心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になることもあるがその方が過ごしやすい様な生活環境や散歩したい方には一緒に施設内・外を散歩したりし、希望に沿えるよう過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様それぞれに似合う服装を選んでいただける様声掛け行っている。又、洗顔後、入浴後には乳液をつけたり、ヘアオイルをつけたりとその方の習慣に合わせた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者様のアレルギーや好き嫌いを把握し、可能な限り好みの物を提供している。又、食器洗いの手伝いも入所者様と無理のないように出来る範囲でして頂いている。	季節の行事の際、ホームではちらし寿司や刺身、あら汁を提供するなど入居者の楽しみとなっている。普段の食事についても入居者の食べやすい形態や食器の選定などを家族にも相談し、同意を得て変更することで食事が安全に楽しく摂取できるよう努めている。職員は入居者のリクエストに対応したり、家族からの情報をもとに本人の好きなものを提供するなど、入居者の喜びとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事摂取量を確認、記入を行っている。 10時・15時にはおやつ、水分補給をして頂き、水分摂取が難しい方には好みの物を提供し、水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には一人ひとり歯磨き、うがいをして頂き義歯洗浄も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、その方の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛けを行いながら自立支援を行っている。	職員は排泄チェック表を確認し、尿意がない方もトイレへ誘導することでトイレでの排泄に繋げている。また、ミーティングを通じて本人の尿量や昼夜の状態を考慮した上でオムツや尿取りパットの種類を検討し、常に見直しを行っている。入院期間中にオムツ使用になった方も徐々にトイレでの排泄に繋げ、自立に向けた支援に努めている。尿取りパットが汚染した際にはすぐに交換できるよう定期的に交換し、快適に過ごせるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が中々難しい方には、その方の好みの物を取り入れながら出来る限り、水分摂取して頂ける様心掛けている。又、毎日の体操等で体を動かしてもらい予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の拒否などがあれば日にちをずらしたり、声掛けの職員を代えたりしながら入浴して頂いている。本人や家族からの入浴回数の希望には出来る範囲で希望に添えるよう支援している。	浴室にはシャワーチェア・滑り止めマット・浴槽内手すり・暖房設備があり、入居者が安全で快適に入浴できるよう努めている。また、静かに入りたい方や会話を楽しみたい方など本人の希望に合わせた支援を行うことで入浴が楽しいものとなるよう努めている。季節に応じてゆず湯・菖蒲湯のほか、本人の好みの香りのシャンプーを準備するなどリラックスして入浴できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状況に応じて昼寝や和室で休んで頂いたりして気持ちよく休んで頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の薬剤情報説明書を把握し誤薬がない様、服薬時には名前・日付・いつの薬かの確認を声に出して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割を持ってもらいそれぞれの趣味を提供し行事、散歩、日光浴等の支援を行っている。 ・今回ドライブや施設外の行事は新型コロナウイルス感染予防の為中止となった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	R2年度は新型コロナウイルスの影響もあり、感染予防の為外出・外泊等は最小限にし、やむを得ない時のみ外出の許可もらい家族協力のもと感染予防に努めてもらい外出の支援行っている。	職員は天気が良い日には中庭で外気浴を行うほか、ホーム敷地内を散歩するなど入居者の気分転換を図っている。一時的な自宅への外出や家族行事である法事へ参加する際には、車椅子の貸し出しや移乗方法のアドバイスをを行い、安全で楽しい外出となるよう支援している。また、希望があれば職員と一緒に買い物に行くなど入居者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いとして預かり金庫にて管理している。その方の力量に応じて希望があれば少額を所持して頂いている。新型コロナウイルスの影響にて本人様がショッピングに行く事は出来なかったがその方の欲しい物などを聞き、職員が代行で買い物へ行き、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があれば職員が対応している。現在は電話される方・手紙のやり取りする方はおられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調の温度・湿度調節や照明の調節、季節に応じた施設内の飾り付けをして居心地良く過ごしていただいている。	リビングの照明にはぼんぼり飾りを用いることで温かで家庭的な雰囲気があり、テーブル席やソファ、和室など入居者が好む場所で過ごせるよう配慮している。勝手口の窓からは桜の木を眺めることができるほか、観賞用としてプランターに季節の花々を植えるなど入居者の楽しみとなっている。廊下には手すりを設置することで入居者の歩行の安定に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の生活スタイルを尊重し無理強いはず、居室や食堂と思い思いの場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や花、誕生日の色紙、家族が持ってこられた物を飾って、その方らしい居心地の良い居室になるように努めている。	居室の掃き出し窓からはウッドデッキに出ることができ、明るく開放感がある。入居者にベッド以外の場所でも過ごしてもらえるよう、ホームでは室内に椅子と丸テーブルを準備し、編み物などの趣味活動や家族との面会の際にゆっくり過ごせるような空間づくりに努めている。居室への持ち込み品として、書字・表彰状・テレビ・ハンガーラックがあり、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の段差はほとんどなく、浴室やトイレ・廊下等に手すりがある。トイレの洗面台も車イスの高さに合わせてあり、できる限り自分でできる環境になっている。		